

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター　なかよしひろば			公表日		2025　年　2　月　28　日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環 境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		発達段階においてそれぞれ活動空間を確保している。	それぞれクラスの部屋が子ども達にも分かりやすく視覚的に掲示を行なっています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		基準以上の職員を配置している。	対の関わりのみならず大人を軸に子ども同士の関わりを増やしていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	88%	12%	玄関から入りすぐに荷物置きを設置したり、スケジュールの掲示をしている。時計と写真で掲示をしている。	視覚支援をもっと分かりやすく進めたい。スケジュールの掲示について見直し、よりわかりやすい方法を検討し、新規の児童にも見通しを持って安心して過ごせるよう構造化を行なっています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		刺激や危険の少ない環境づくりを心掛けている。 毎日館内清掃を行っている。 感染症対策の為、不特定多数の人が触れる物は消毒を行っている。	継続して清潔で安心して過ごせる環境を維持していきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		カームダウン時は個別に対応できる部屋を準備している。	カームダウンできる部屋は常に綺麗な状態を継続します。刺激のない環境設定に努めます。		
業 務 改 善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	88%	12%	毎日、終礼時にクラス単位で振り返りを行ない、最後は職員全体で情報共有を行ない統一した関わりを周知している。 短時間勤務職員には記録を残し、次の日必ず確認してもらうようにしている。	引き続き、毎日の終礼で情報共有し振り返りを行ないます。事例検討を行いながら支援の質を高めます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		アンケートを実施している。 コドモン等の I C T を活用した保護者とのコミュニケーションも進んでいる。	引き続きアンケートの結果を参考にサービスや支援の質の向上に努めます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		記録に残し、確認している。検討した内容は実践し振り返りを行なっている。	検討した内容を期間を決めて実践し評価することで、次の関わり支援に繋げていきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	88%	12%	視察の方や研修・実習生・ボランティアの受け入れを行なっている。その際に感想などいただくようにして、職員全体にフィードバックをしている。 地域の通所事業所に自己評価を見てもらい第三者からの評価をいただく予定にしています。	引き続き、積極的に外部からの受け入れを行なっています。自己評価の結果を地域の通所事業所にも確認をしてもらい、第三者の評価を行なうようにしていきます。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		定期的に感染症・身体拘束・虐待防止・危機管理について事業所内研修を行っている。 法人全体でキャリアパス研修を定期的に行っている。 法人でそれぞれ事業所内研修を開催している。自由に参加できる。	定期的に研修に参加することで職員一人一人が自己啓発できるように機会を引き続き増やします。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		支援プログラムを軸にしながらこどもたちの育ちの姿を共有し、同じ方向性を向いて支援を行なうことができている。	支援プログラムをより理解し取り組んでいくために、年度の初め頃に研修を行なうようにしていきます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		担当者会議やモニタリング会議で保護者、相談支援専門員、関係機関の職員等と情報交換して支援について検討している。 ライフサポートブックを活用し、生活全体の聞き取りも行っている。	ご家庭や登園されている保育園等の様子を丁寧に聞き取りさせていただきながら、本人、家族の意向や希望の姿等を参考に支援計画書の作成に努めています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		定期的に担当職員などにモニタリングし児童にとつての育ちに寄り添う関わりを大切にし終礼の話し合いや事例検討しながら作成している。	積極的に現場の意見交換を行い、計画作成に努めています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		個別支援計画作成の為の会議を行ない、職員で検討し意見交換を行っている。作成できた計画書は全体周知を行ない計画に沿った支援を行っている。	引き続き、個別支援計画作成の会議を定期的に行い、日頃の様子や児の状況を把握しながら計画に沿った支援を全体で周知し目標に向かって支援していきます。		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	88%	12%	レーダーチャートの活用を行なっている。定期的に振り返りを行ない情報共有を行なっている。必要に応じて保育所等と共通理解に努めている。	レーダーチャートを活用しながら関係機関とも連携を取り児の育ちをサポートしていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		個別に配慮された具体的な支援について記載し保護者にも理解できる言葉で表している。目標設定を明確にし日頃の話し合いの中で検討し振り返りながら支援計画も更新できるように関わっている。	担当職員からの丁寧な聞き取りを継続しながら目標設定を行い、モニタリングなどの振り返りながら支援内容を明確にしていけます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		クラス担当が中心となって発達段階において配慮しながら立案している。終礼で振り返り課題や改善策を意見交換している。定期的なチームでの話し合いを行っている。	引き続き継続しながらチームで連携を取り進めていきます。また様々な職員の意見を取り入れながら進めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		スモールステップしながら児童が楽しみや期待感を持てるような活動を心掛けている。また発達段階において活動を固定化する事で通しや安心感を持って参加できている児童もいる為、児童の状況で対応している。	日々の振り返りを大切にし次の支援に繋げられるように努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		個別及び集団での様子、保育園での様子を踏まえて必要な支援を検討しながら作成している。	保育所等と連携を取り情報共有しながら更に具体的な活動内容を提示し個別に合った支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		朝礼後に各クラスで、分かれその日に行なう活動や個別の伝達事項を周知している。設定保育（療育）については役割分担を行いチームで連携している。	更に振り返りを行いながら評価も丁寧に行っていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		毎日、終礼時にクラス単位で振り返りを行ない、最後は職員全体で情報共有を行ない統一した関わりを周知している。短時間勤務職員には記録を残し、次の日必ず確認してもらうようにしている。児童の成長した姿を職員で共有したり、問題行動については次回どのように関わっていくのか意見交換し方向性を決めている。	課題についてはもっとと深掘りし支援の方向性や実際に行った支援について振り返り評価していけるように努めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		毎日、コドモンにて個別の記録、終礼での話し合った記録をしている。誰でも回覧できるようにファイルにもしている。議題に挙った内容は振り返りを行なっている。	コドモンを活用しながら改善していきます。
関係機関や	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		6ヶ月毎に保護者、相談専門員、担当職員、児童発達支援管理責任者と定期的に行っている。前回の計画の内容を振り返り、スモールステップしながら就学に向けて見直しを行なっている。また保護者に確認し、4歳児の年に登園している保育所等も一緒に参加してもらい就学についての方向性も検討し共通理解をしている。	引き続き、今の流れを定着させ、保護者にも丁寧な説明を行なっていき関係機関、保護者全体で児の育ちのサポートを行なっていきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		基本的には児童発達支援管理責任者が参加している。可能な限り担当職員も参加している。参加できない場合は聞き取りを行なっている。	引き続き継続していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		日頃から保健師さんと互いに連絡を取り合い、役割分担もしながら協力して取り組む体制が整っていると思う。	行政ともっと連携が取れるといいと思います。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		定期的な保育所等訪問支援を活用したり通常の送迎時に情報共有を行っている。相談専門員さんにも共有し必要に応じて支援会議等、関係機関が集まり共通理解に努めている。	就学の見学で特別支援学校に同行させてもらうことがあり様子など把握もでき、情報共有もでき良い機会でした。定期的に行なっていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		就学先の学校の連絡会に児童発達支援管理責任者が参加したり、見通しが持てるように就学前と一緒に入学する児童と学校見学に行くようにしている。	学校への継続支援において学校と連携して就学前に学校に慣れる為の時間を確保し、安心して入学を迎えることができた事例も見られたので毎年の取り組みとして継続していきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	100%		豊肥地区の連絡会を開催した。現状の困りなど意見交換できる機会ができた。地域の事業所と互いに連携を取りながら当事業所が中核的役割を担い地域の支援体制を構築できるように努めている。	来年度は定期的に豊肥地区で連絡会を開催し、事業所同士の連携を図り、地域の福祉サービスの質の向上に努めていきたい。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	76%	24%	参加した研修は少ないが可能な場合は参加するように努めている。	・内部研修の機会は多くありますが外部はあまり機会がないので様々な研修に参加したい。 ・オンライン研修も積極的に活用します。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%		管理者が参加している。管理者が参加出来ない時は児童発達支援管理責任者が出席するように努めている。	自立支援協議会では活発な意見交換を期待している。
		(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	88%	12%	併行通園している児童が多い。 未就園児は隣りのこども園の園庭で遊んだりする機会を設けている。	保育所等と連携を取りながら交流の機会が設けることが可能なら保護者に相談しながら積極的に交流したいと考えています。
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		毎日のコドモンの連絡帳にて情報交換を行っている。電話連絡が難しい保護者に対してもやり取りが役に立っている。	今後もコドモンを活用していきます。
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		親グループでの交流ができる場を提供している。保護者向けの勉強会は情報提供を行なっている。 ペアレントプログラムの開催の案内を保護者に情報提供している。	引き続き情報提供を行なっていきます。
保護者への説明等	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		管理者や児童発達支援管理責任者が契約の際に説明をしている。	定期的な担当者会議や支援会議を相談支援事業を中心に開催をしています。その際に保護者からの相談を受けています。家族の抱える悩みや見通しを一緒に考えていながら当事業所が子どもにとっても保護者にとっても安心できる居場所になっていただけるよう私達もサポートしていきます。
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		新規の契約時やモニタリング等でアセスメントを丁寧に行い児童、家族の意向を確認し計画作成に取り組んでいる。	
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		支援内容を丁寧に説明し、同意をいただいている。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		6ヶ月毎に関係者が集まり担当者会議を開催している。その際に家での様子や子育ての悩みなど聞き取りを行っている。必要に応じて保護者からの相談に応じ面談できる環境を作っている。 週に1回、臨床心理士を中心に親グループの話し合い、情報交換ができる場を設けている。その都度、臨床心理士からのアドバイスを保護者にしている。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		年に3回、家族で参加できる行事を企画している。そのうち2回は保護者会（最近の子どもの様子など話す会）も開催している。きょうだい児も一緒に参加して当事業所で過ごす場を設けている。	コロナ過は開催することが難しかったが現在は開催できています。家族もきょうだい児もなかよしひろばはどんなところなのか知ってもらいたい機会なので今後も継続していきたいと考えています。
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		管理者や児童発達支援管理責任者が対応している。児童発達支援管理責任者や主任に相談・報告をする仕組みを職員全体に周知している。	今後も相談できる環境を整えていきたいと思っています。
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		毎日のコドモンにて子どもの様子や成長、関わりを保護者に共有。行事の様子等は年に4回のお便りを発行している。	・コドモンを導入して以来、こどもの様子が以前より伝わりやすくなり、連絡も取りやすくなったと好評を得ています。引き続き保護者とのコミュニケーションが密に簡単にとれるようICTの活用を進めていきたいと思っています。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		施錠ができる棚に書類を保管している。USBメモリの使用は一切禁止している。	
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		今年度、聴覚障害の児童を受け入れるにあたって職員が自己啓発で手話学習を行いその児童に手話で意思疎通ができるようになった。また職員にも周知する機会を設けた。 コドモン（ICT）を活用することでスマートフォンで情報を受け取れるようにしている。簡単な相談もコドモンで対応している。	
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	88%	12%	地域の方と交流する機会はありませんが公園などの社会資源を利用したり、行事の時にはきょうだい児を招待している。	もっと開けた場になるように努めていきたい。

非 常 時 等 の 対 応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		まだ十分ではないが訓練に関しては年間計画を作成し1ヶ月に1度、様々な発生を想定した訓練を実施している。コドモンにて連絡している。 マニュアルを作成し、職員に配布している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所のマニュアルを更新していきながら職員、保護者等にICTを活用しながら周知していきます。</li> <li>・服薬やアレルギー等、命に関わる情報は面談時にしっかりと確認をして職員全体に周知している。</li> <li>・小さなケガであっても必ず報告書を作成し全体共有、周知をしている。</li> </ul>
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		災害備蓄品を準備している。研修、訓練を行っている。	
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		服薬等の状況について、面談等で確認を行っている。また年度毎に調査票を配布し状況確認を行なっている。	
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギーのあるお子さんについては、医師の指示書に基づく対応を行なっている。 定期的アレルギーの有無の確認を行なっている。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画を作成している。計画に基づく訓練を実施している。	
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		安全計画に基づく訓練等に実施した際には保護者に報告を行なっている。安全計画は掲示し保護者が見られるようにしている。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		報告書を作成し、全体周知を行なっている。 危険な場面があった時には必要に応じて会議を行なったり、場面を再現し共通理解を図りながら再発防止策を検討している。	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		年間計画を作成し定期的に研修を行なっている。振り返りの際には支援者側の落ち度はなかったかという視点を持って話し合いを行い、反省点を踏まえ支援を行なっている。倫理綱領を唱和している。	
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		身体拘束は原則行わないことを徹底して支援を行なっている。身体拘束が必要な状況は発生しておらず、また必要な状況が起きない様に職員間で意思疎通を図りながら支援を行なっている。	